



伊予銀行

平成22年度決算の状況と 今後の経営の方向性

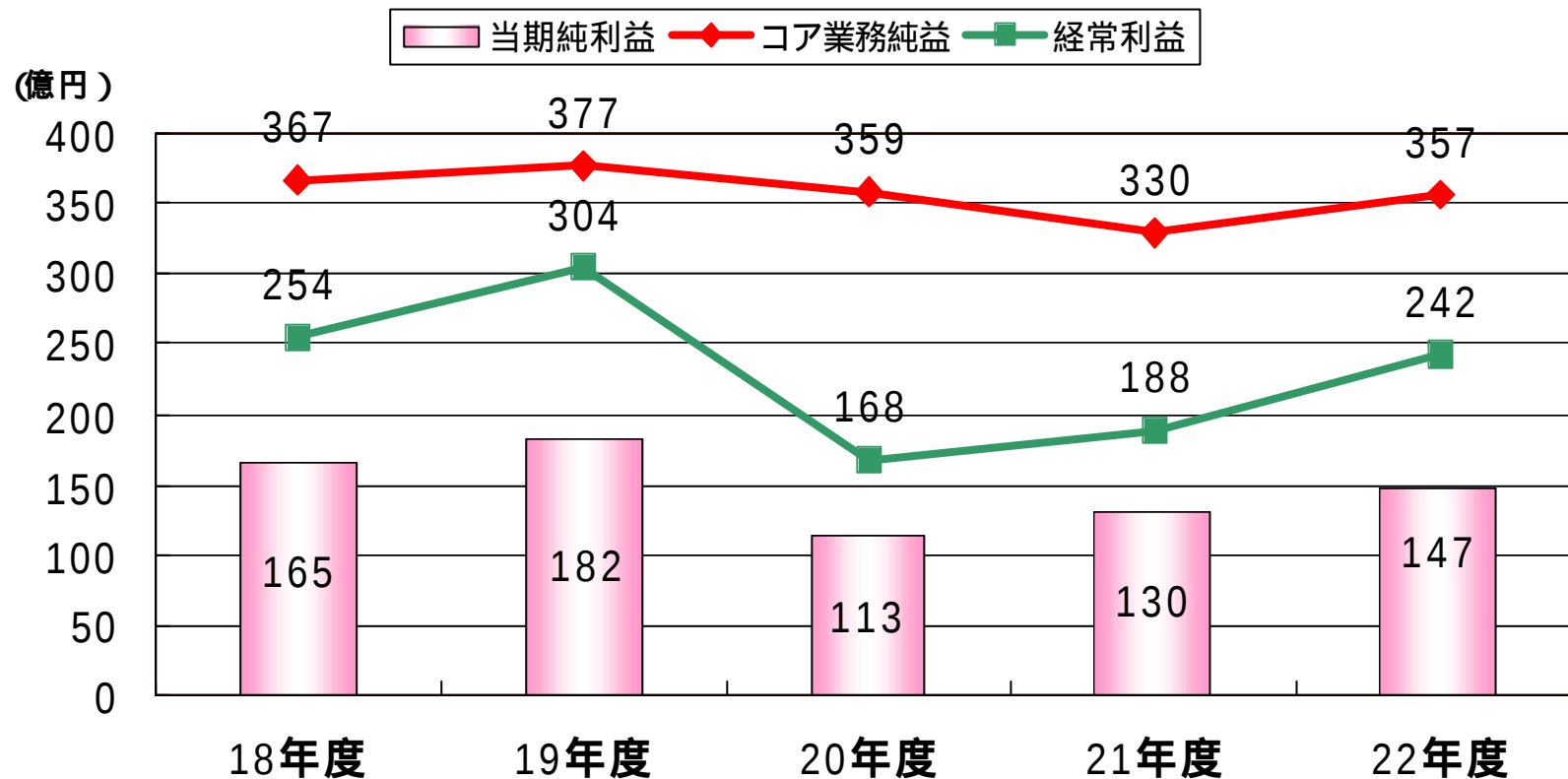
損益の状況



伊予銀行

- 預貸金の増加等によって「**コア業務純益**」は**増益**となりました。
- 不良債権処理費用の減少等もあり「**経常利益・当期純利益**」も**増益**となりました。

<コア業務純益・経常利益・当期純利益の推移>



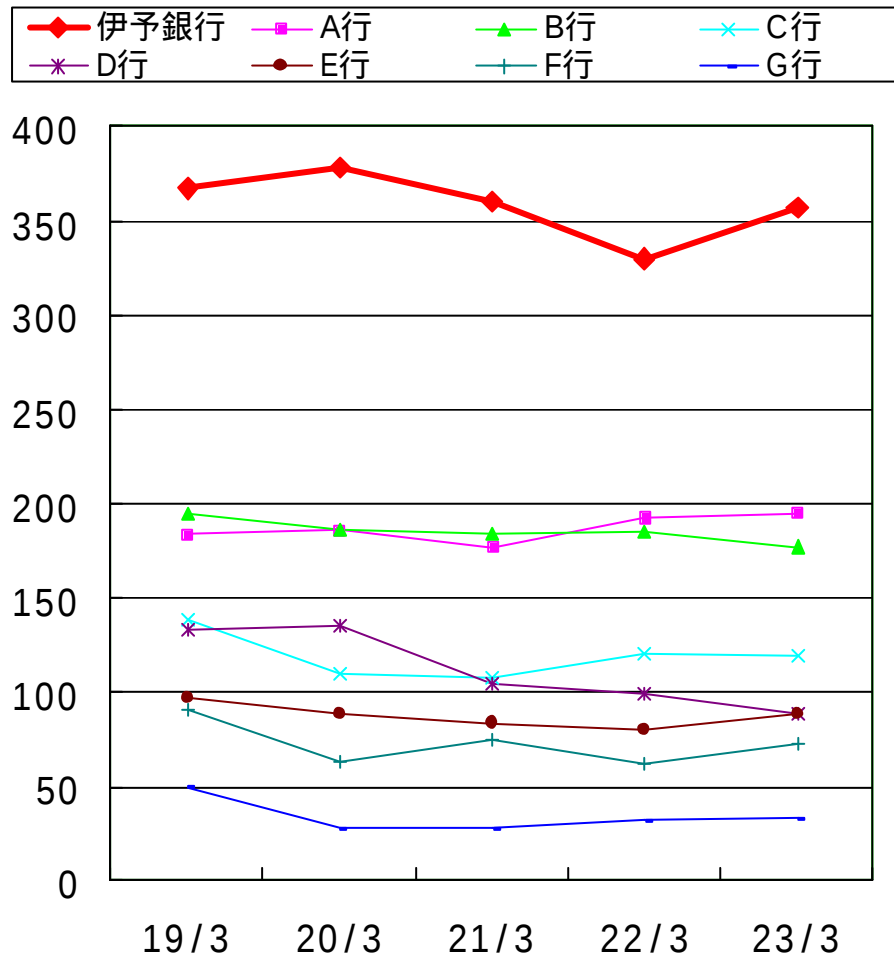
「**コア業務純益**」とは？

一般企業の『営業利益』に相当する指標であり、銀行の基礎的な収益力を示します。

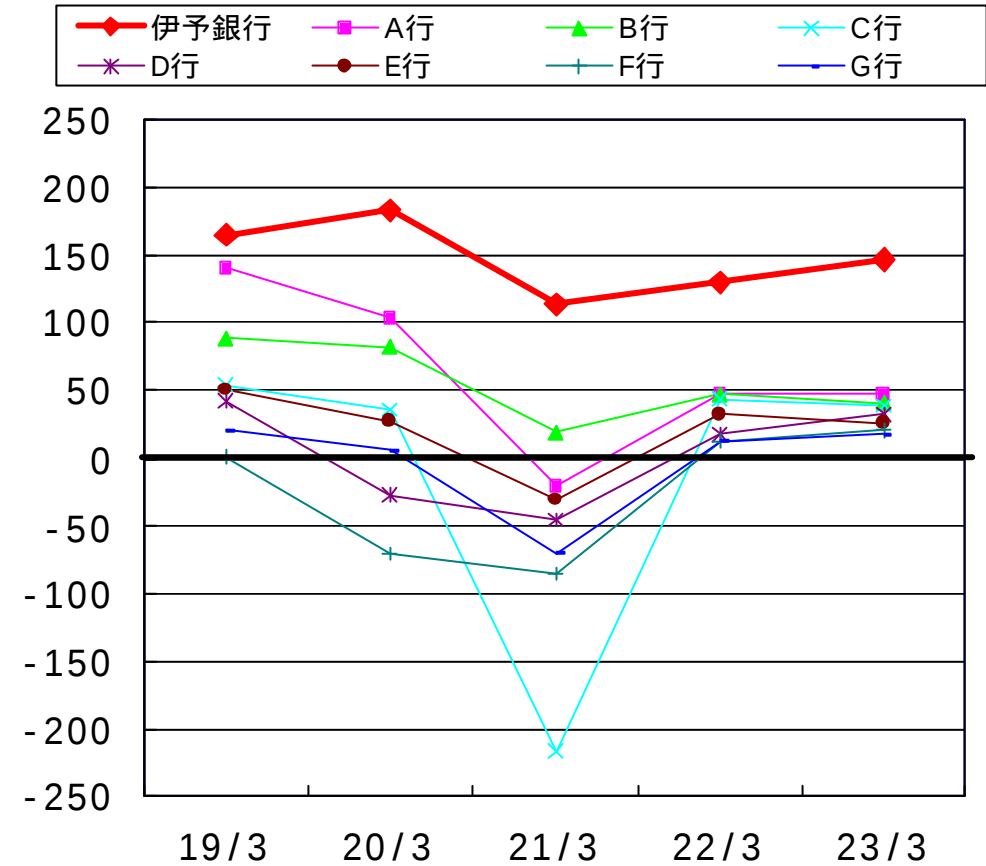
損益状況（四国内他行比較）

- 四国の地銀他行と比較しても **高い利益水準**を確保しております。

< コア業務純益の推移 >



< 当期純利益の推移 >



比較対象は、四国内の地銀他行です。（４県７行）
アルファベットは項目毎に上位から付しており、
一定の銀行を表すものではありません。

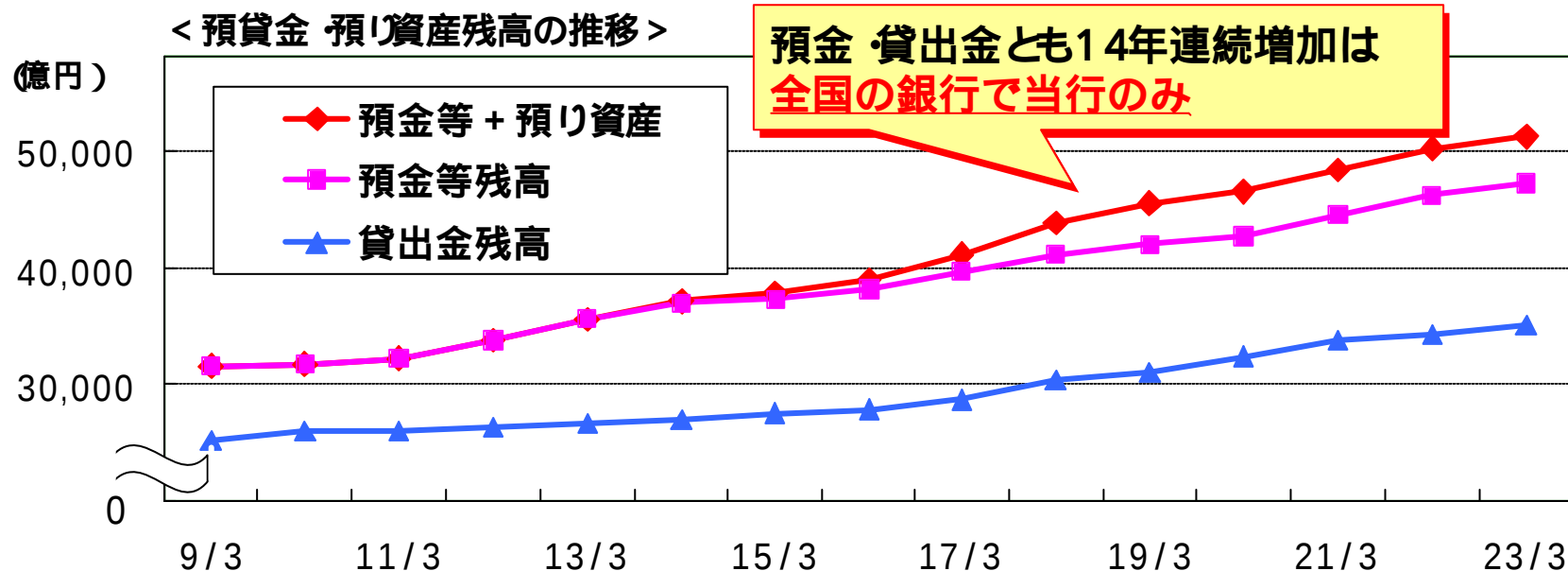
預貸金・預り資産残高の状況

- 経済環境が厳しい中で、預金等・貸出金・預り資産」は引き続き増加しております。
- 預金・貸出金残高は 14年連続で増加いたしました。

(単位:億円)

	21/3末	22/3末	23/3末	前年度比
預金等	44,496	46,088	47,109	+ 1,021
うち個人預金	29,426	30,243	30,768	+ 525
預り資産残高(注)	3,728	4,070	4,110	+ 40
預金等 + 預り資産	48,225	50,158	51,219	+ 1,061
貸出金	33,681	34,221	34,878	+ 657
うち個人融資	8,793	8,871	8,895	+ 24

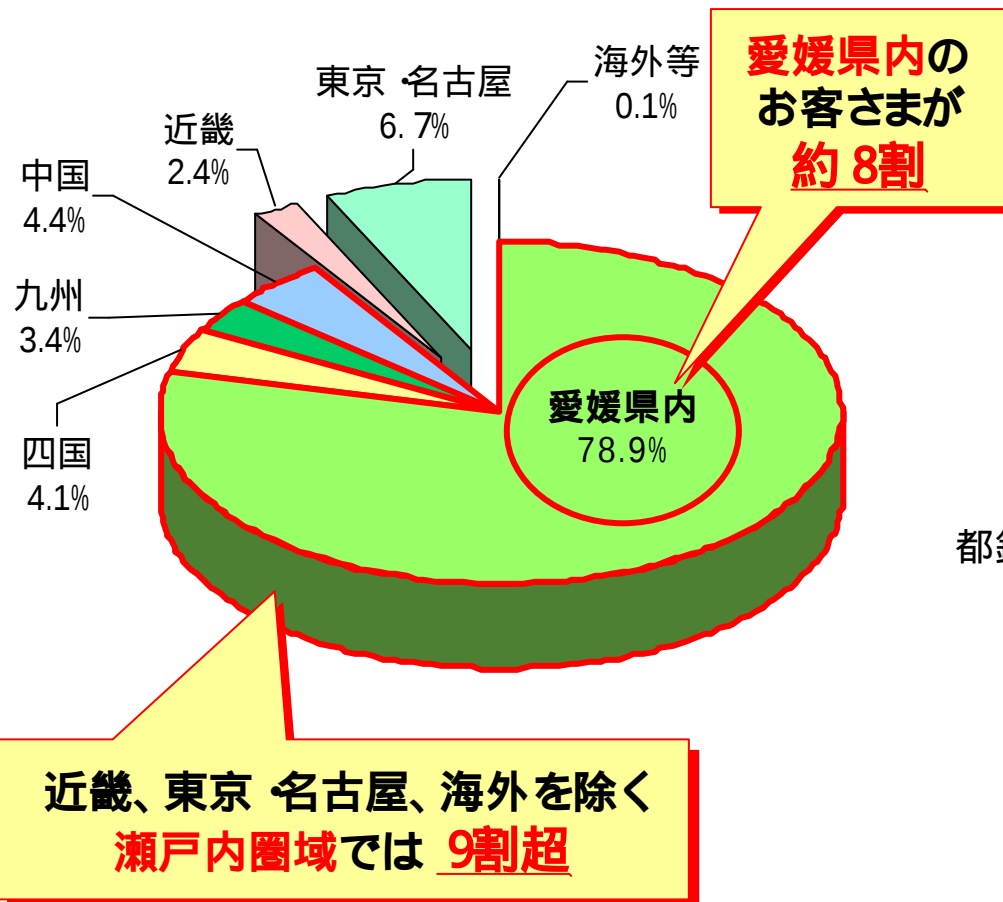
(注) 預り資産残高…国債、投資信託、保険の各残高の合計。22/3末より金融商品仲介による残高を含む。



預金等の状況

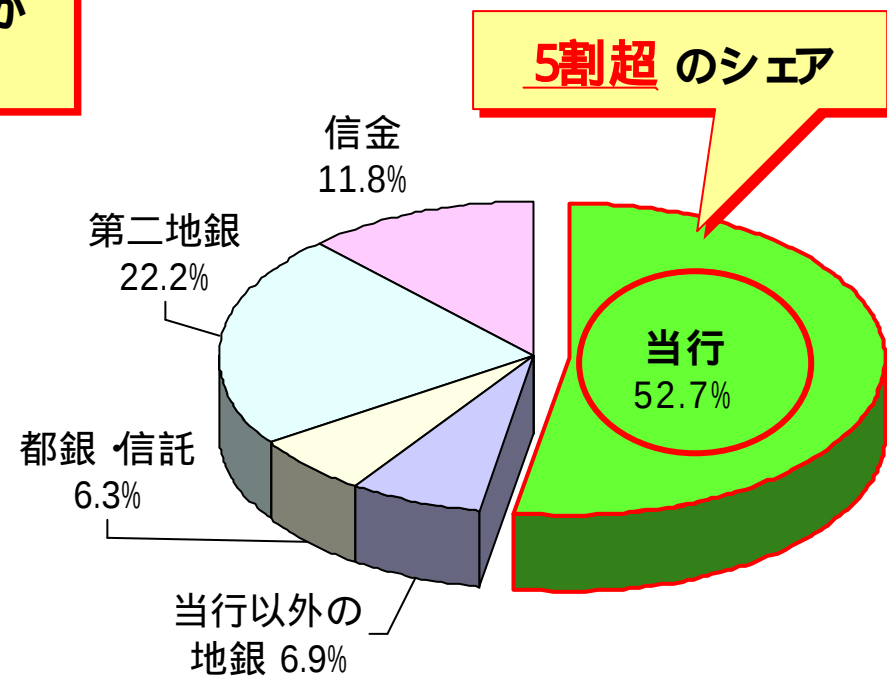
● 預金等 残高は、**4兆7,109億円 (前年度比+1,021億円)**となりました。

< 当行預金等残高 地域別構成比 (23/3末) >



< 愛媛県内預金残高 当行シェア (23/3末) >

(注) 銀行 信用金庫でのシェア

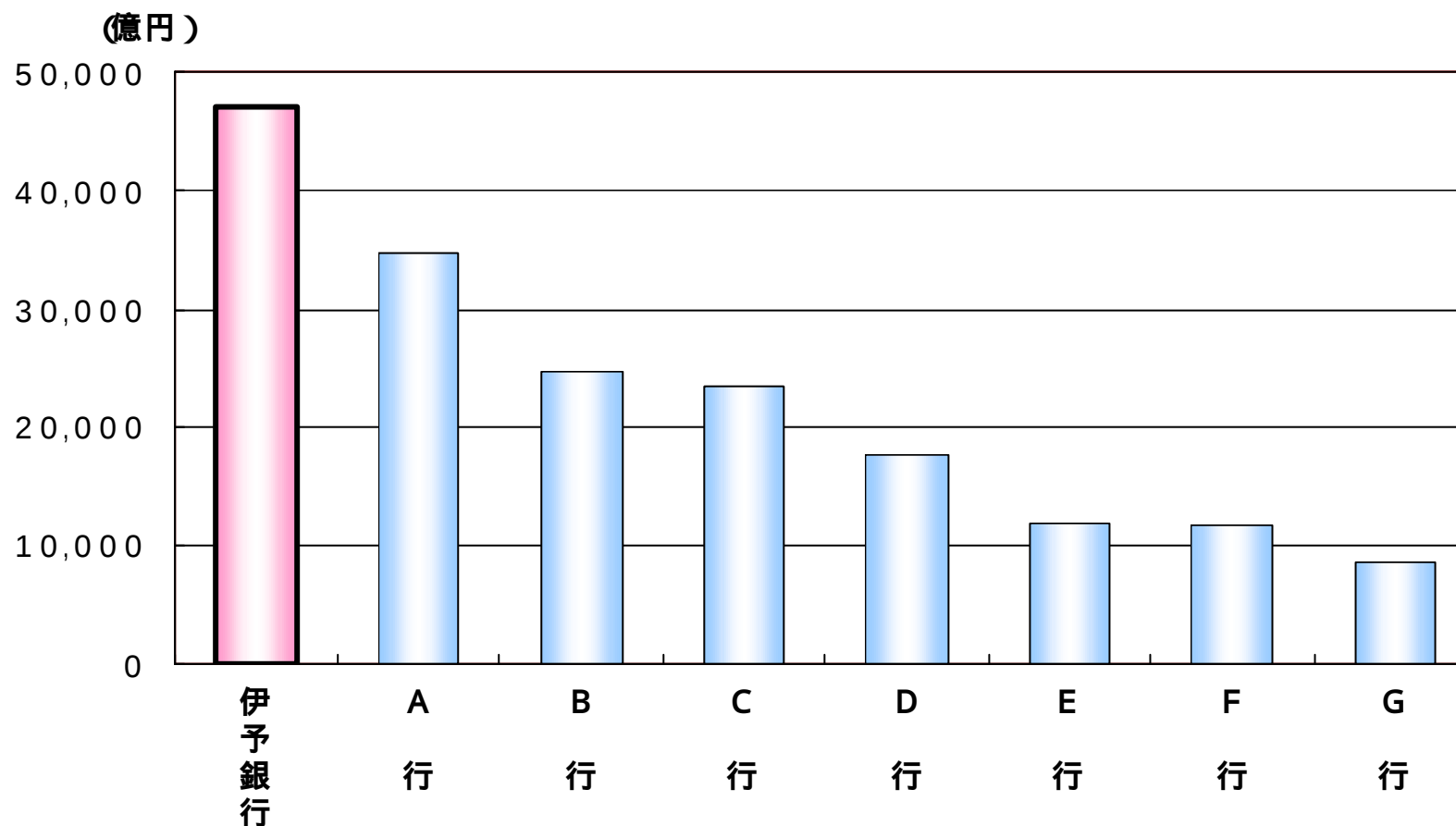


預金等残高（四国内他行比較）



伊予銀行

- 経営の基盤となる「預金等」の残高は、四国内の他行と比べて高い水準にあります。



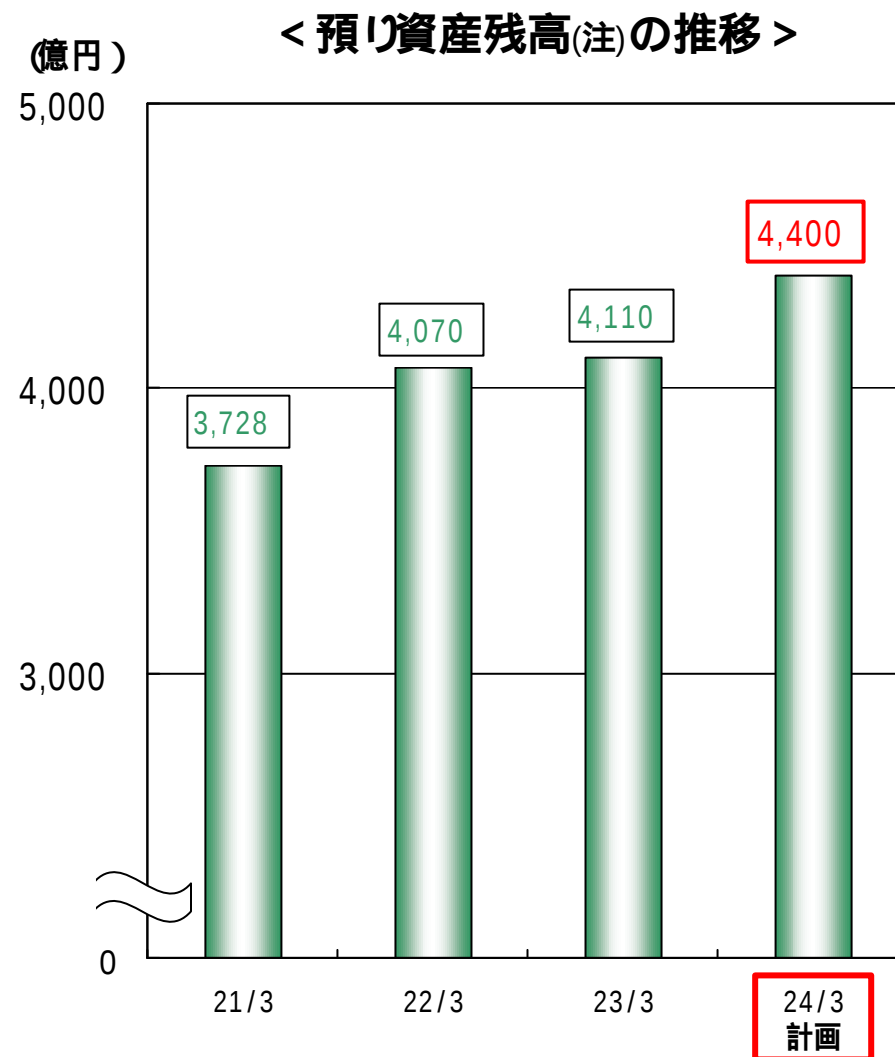
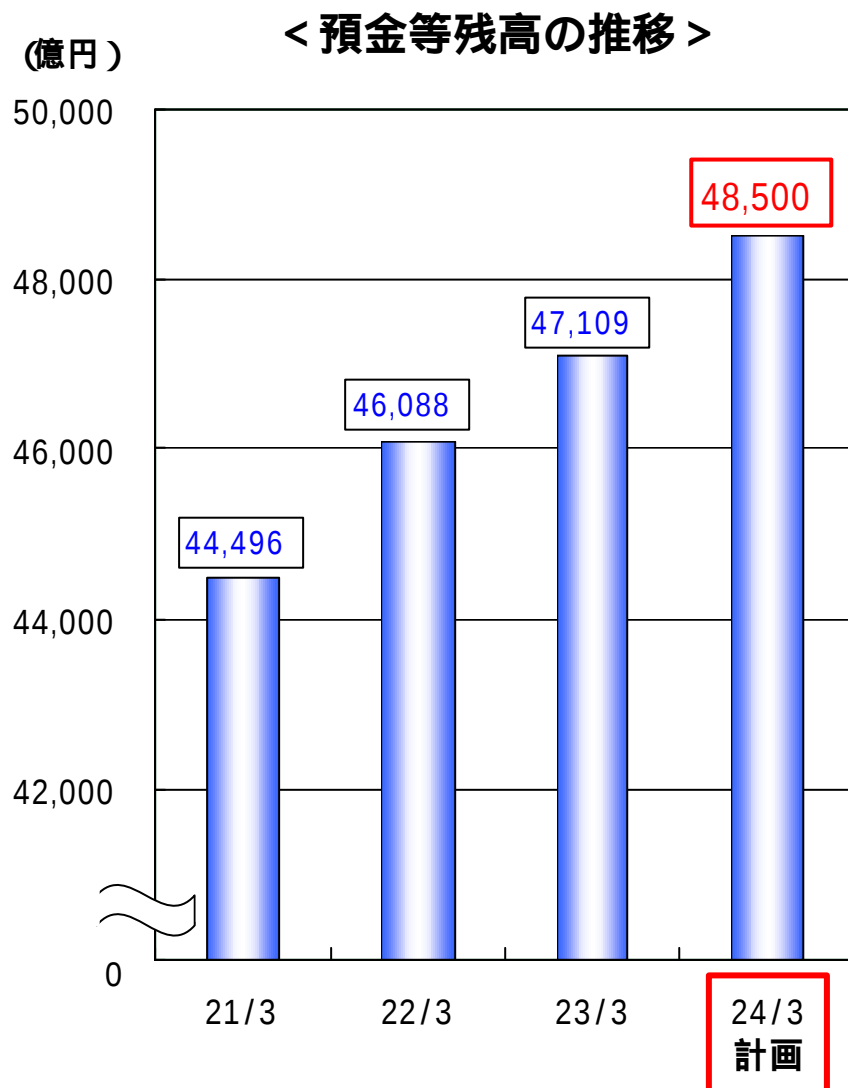
皆さまからのご預金は 当行の **「ビジネスモデルの柱」**です。
引き続き ご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

2 3 年度の預金等・預り資産残高の計画



伊予銀行

- 「預金等 + 預り資産」は、23年度で5兆2,900億円を計画しています。

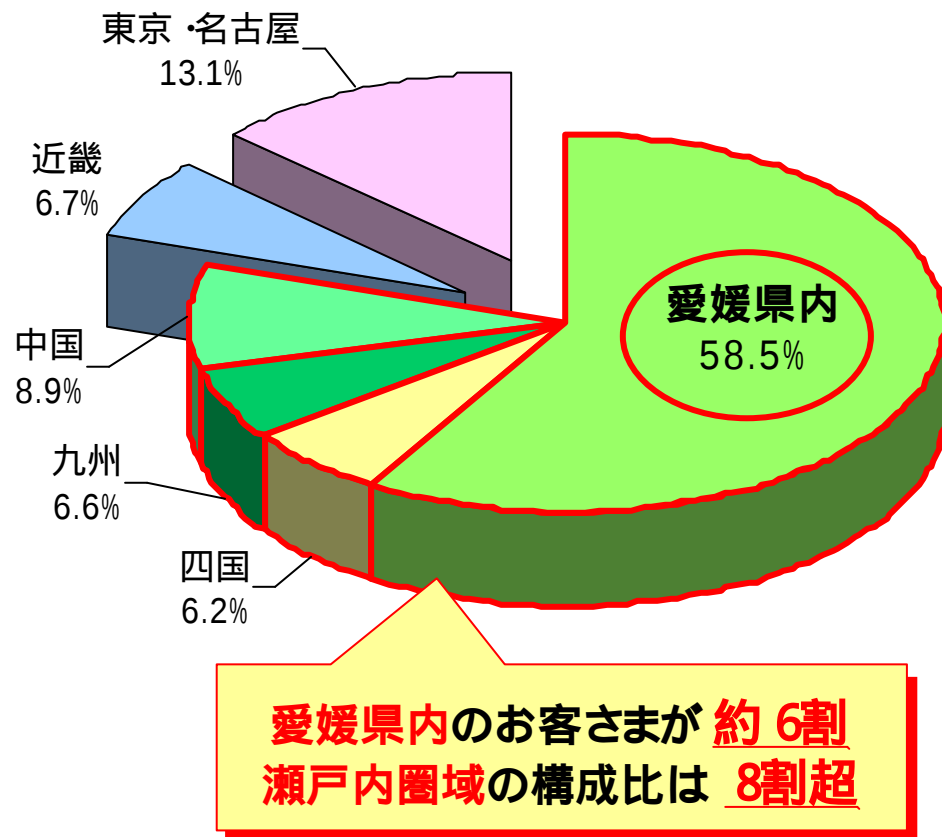


(注) 預り資産残高…国債、投資信託、保険の各残高の合計。
22/3末より金融商品仲介による残高を含む。

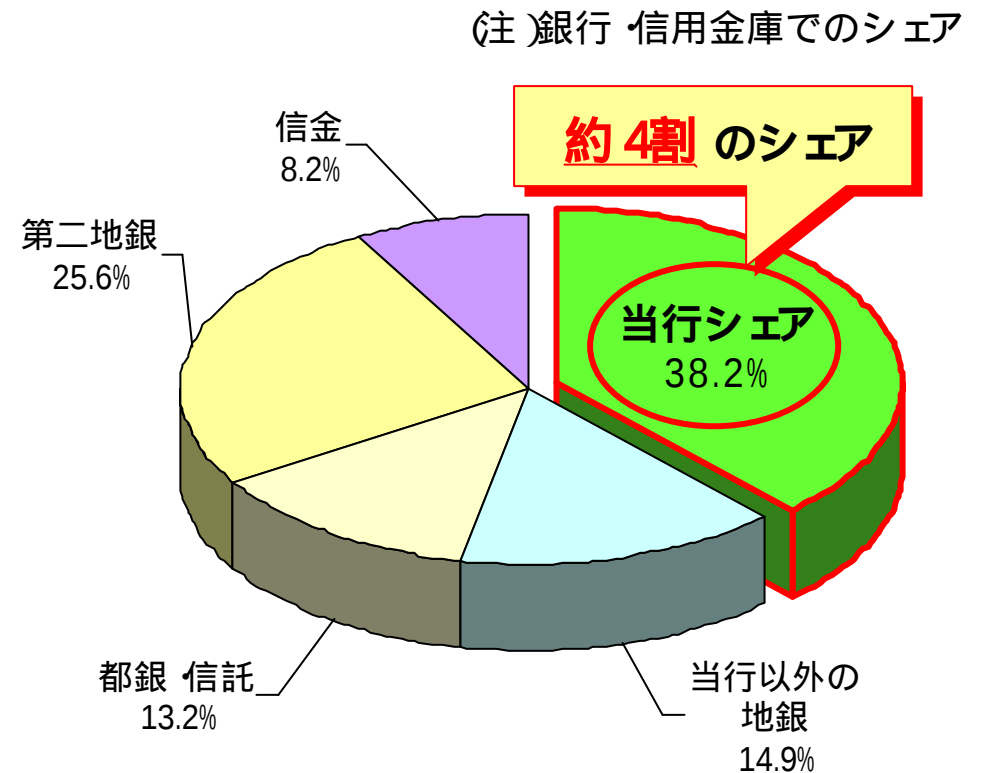
貸出金の状況

● 貸出金 残高は、**3兆4,878億円 (前年度比+657億円)**となりました。

< 当行貸出金残高 地域別構成比 (23/3末) >

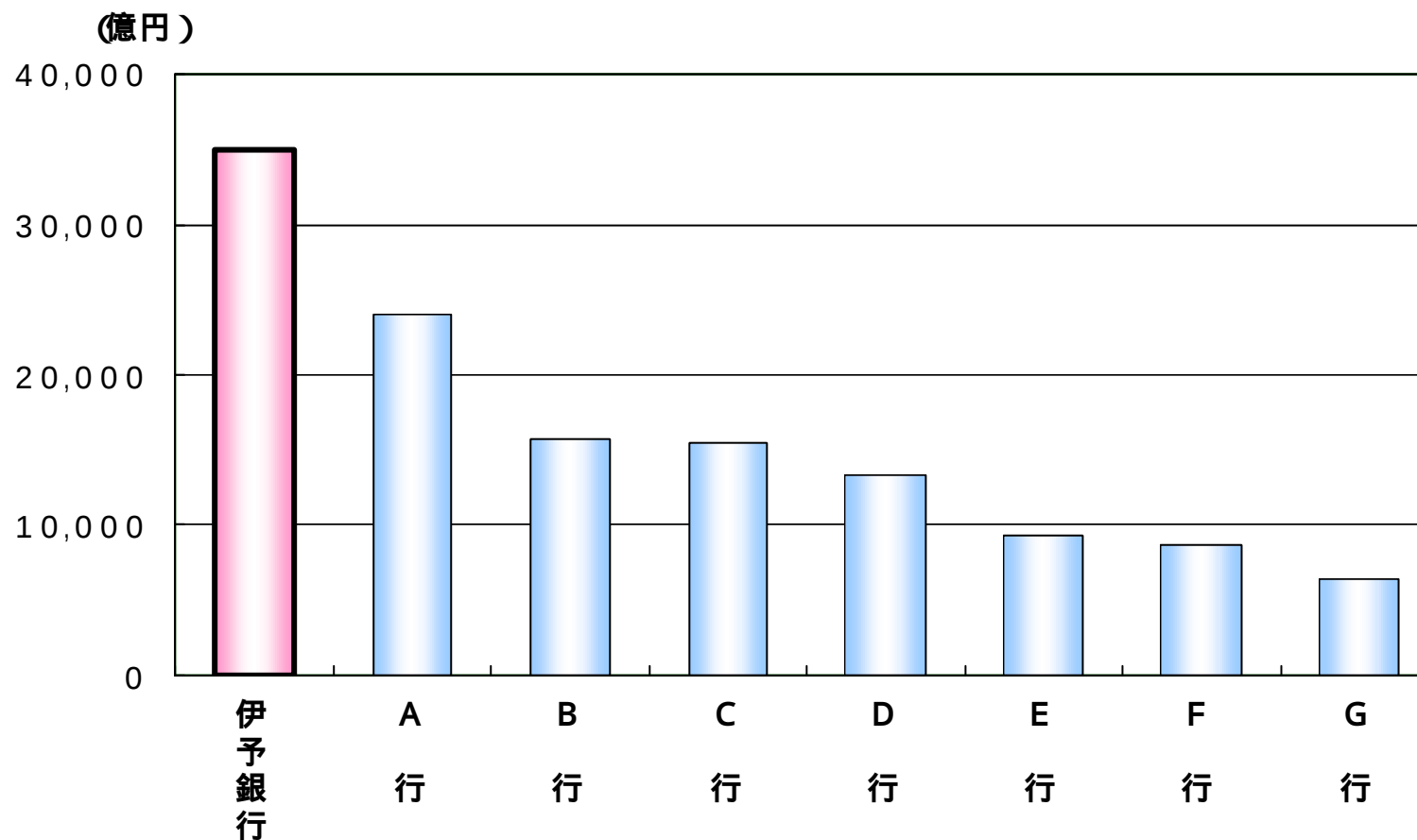


< 愛媛県内貸出金残高 当行シェア (23/3末) >



貸出金残高（四国内他行比較）

- 「貸出金」残高についても、四国内の他行と比較して高い水準を確保しております。

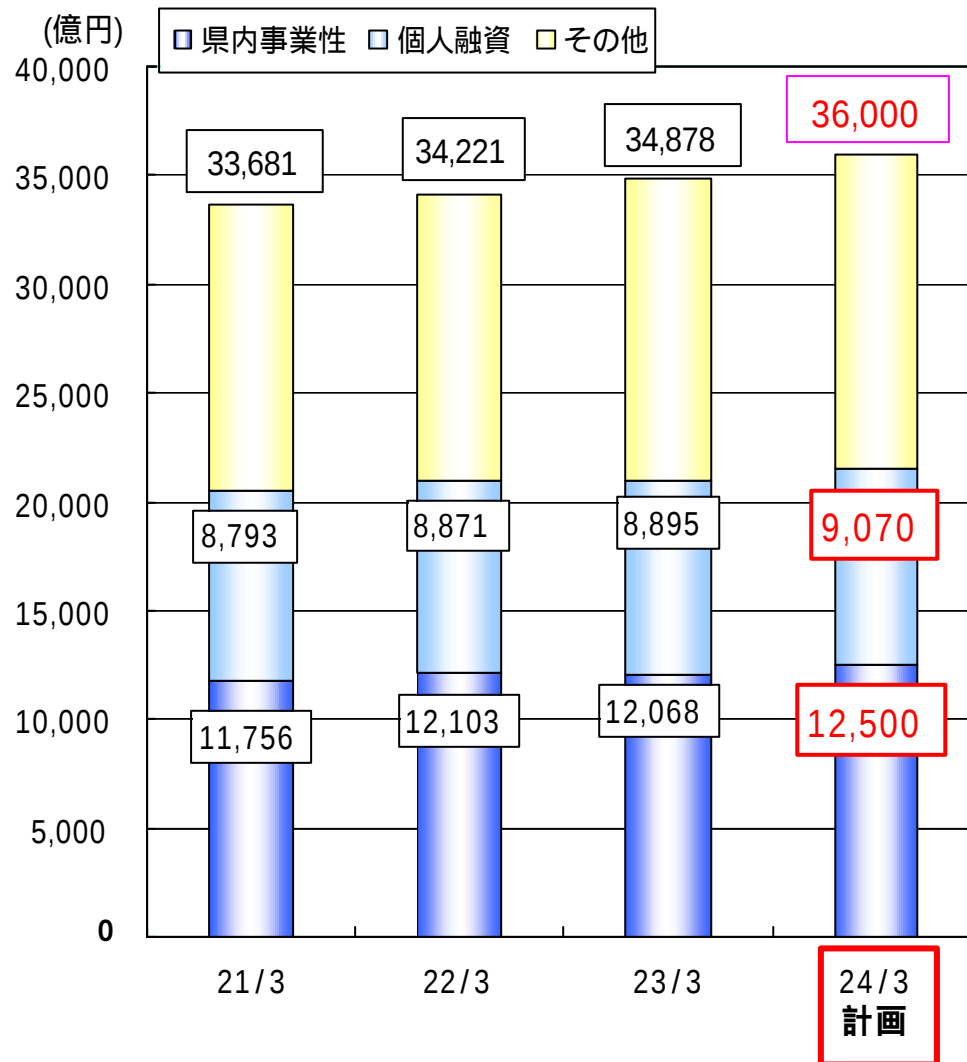


引き続き、地域の資金ニーズに積極的に対応することで、
今後とも **地域経済の持続的な発展** に貢献してまいります。

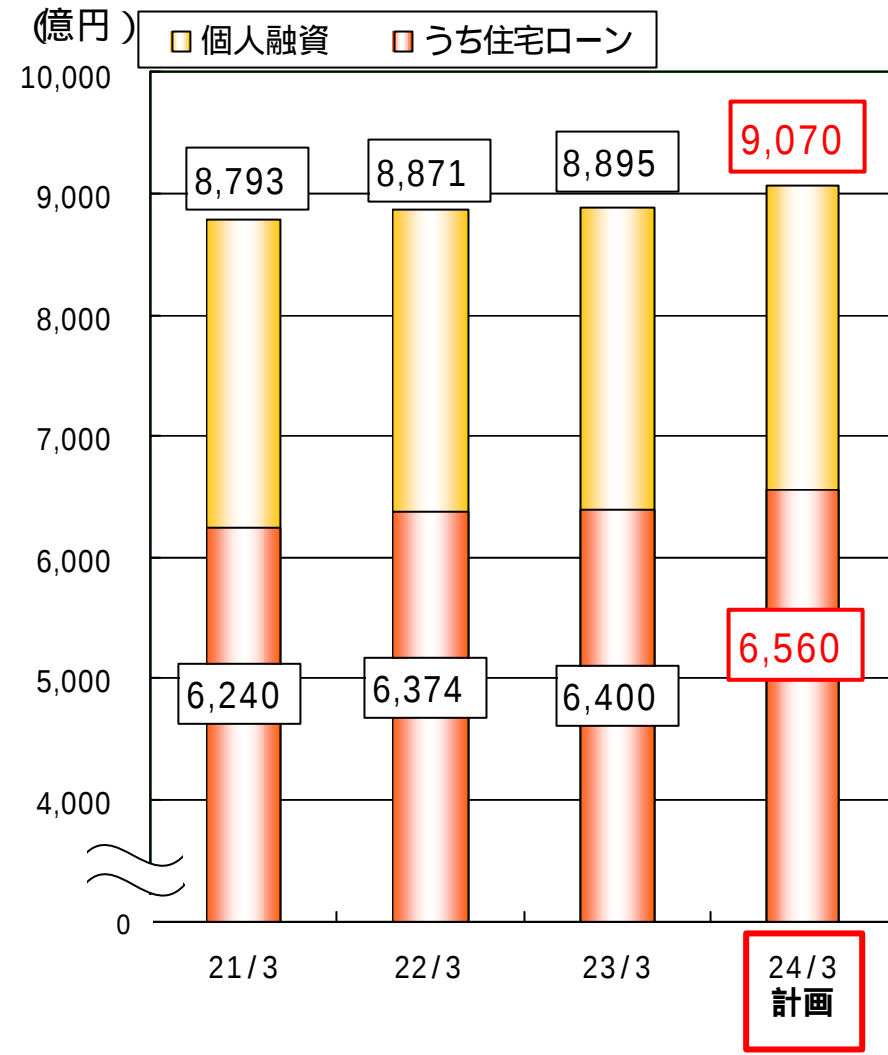
23年度の貸出金残高の計画

- **「県内事業性貸出金」と「住宅ローン」**を中心に、貸出金の増強を図ります。

< 貸出金の推移 >



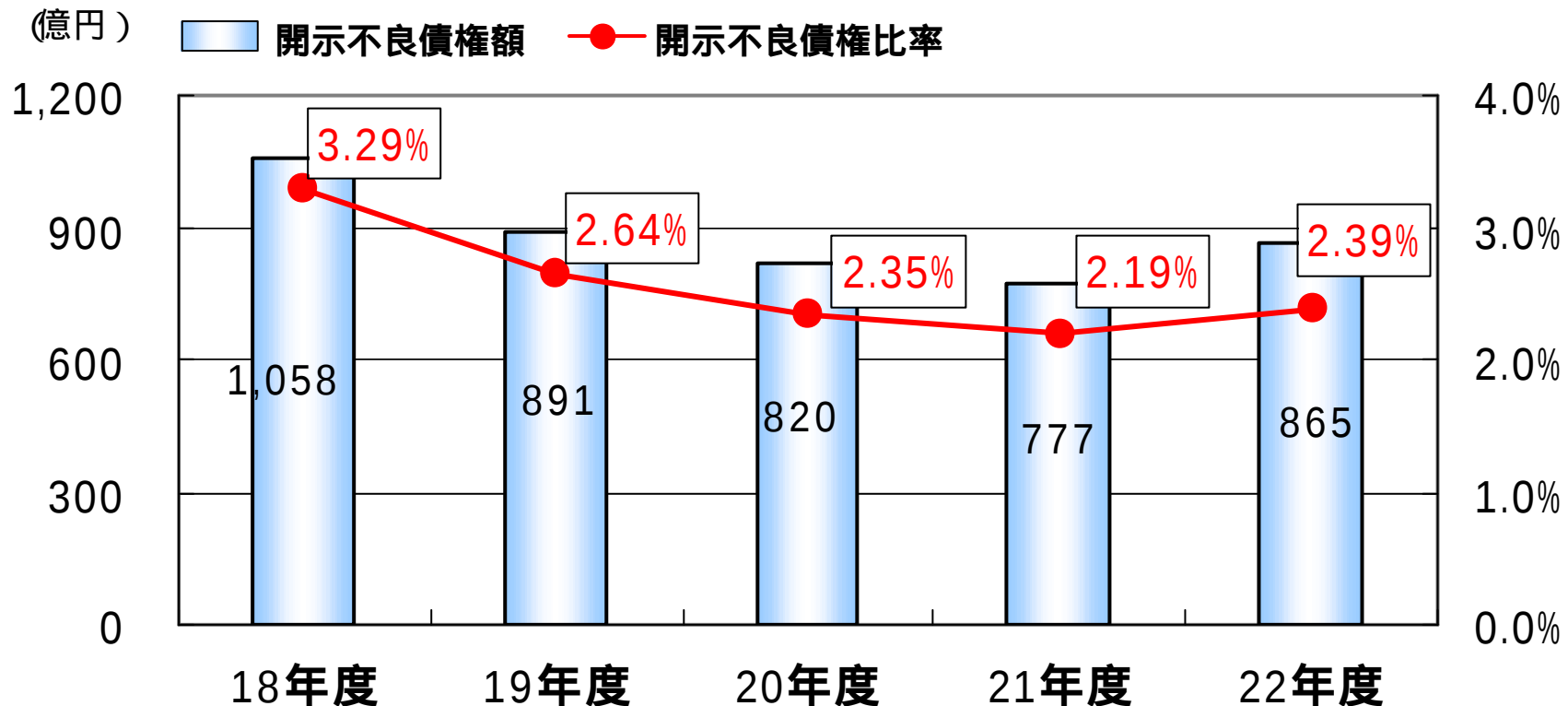
< 個人融資、住宅ローンの推移 >



開示不良債権の状況

- 健全性の目安となる「開示不良債権比率」は、**2.39%** と **引き続き低い水準を維持**しております。(地方銀行平均 3.16%)
- 経営改善へのご支援に努め、不良債権の削減を目指します。

< 開示不良債権額・比率推移 >



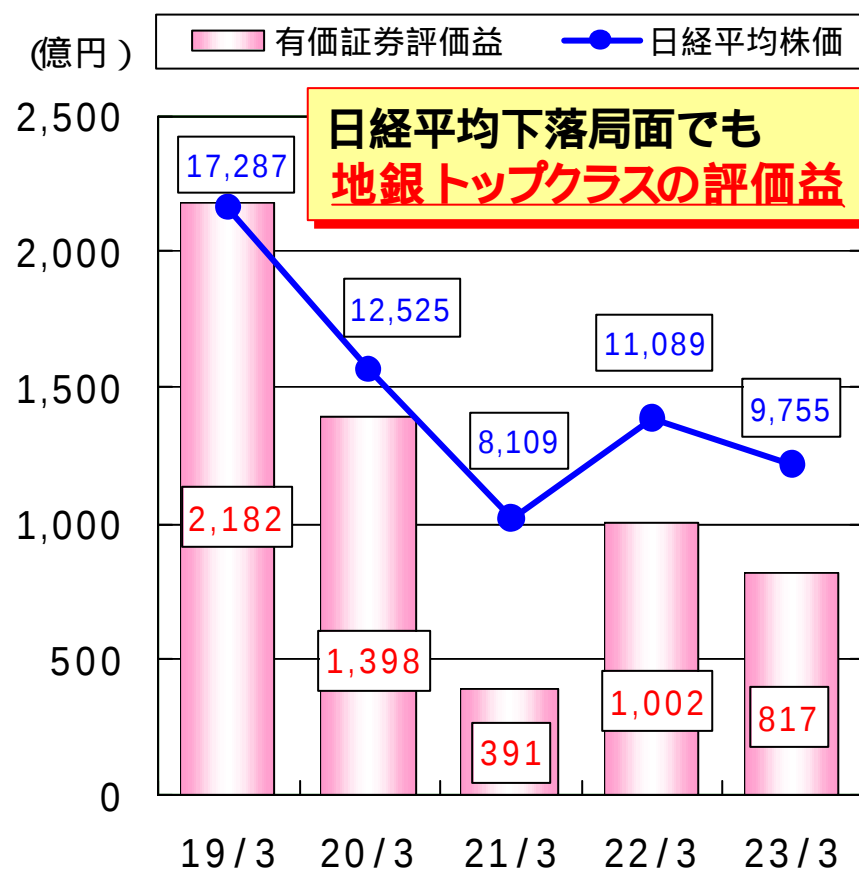
「開示不良債権」とは？

金融再生法により、一定の基準に基づき、金額の公表が義務付けられている債権です。

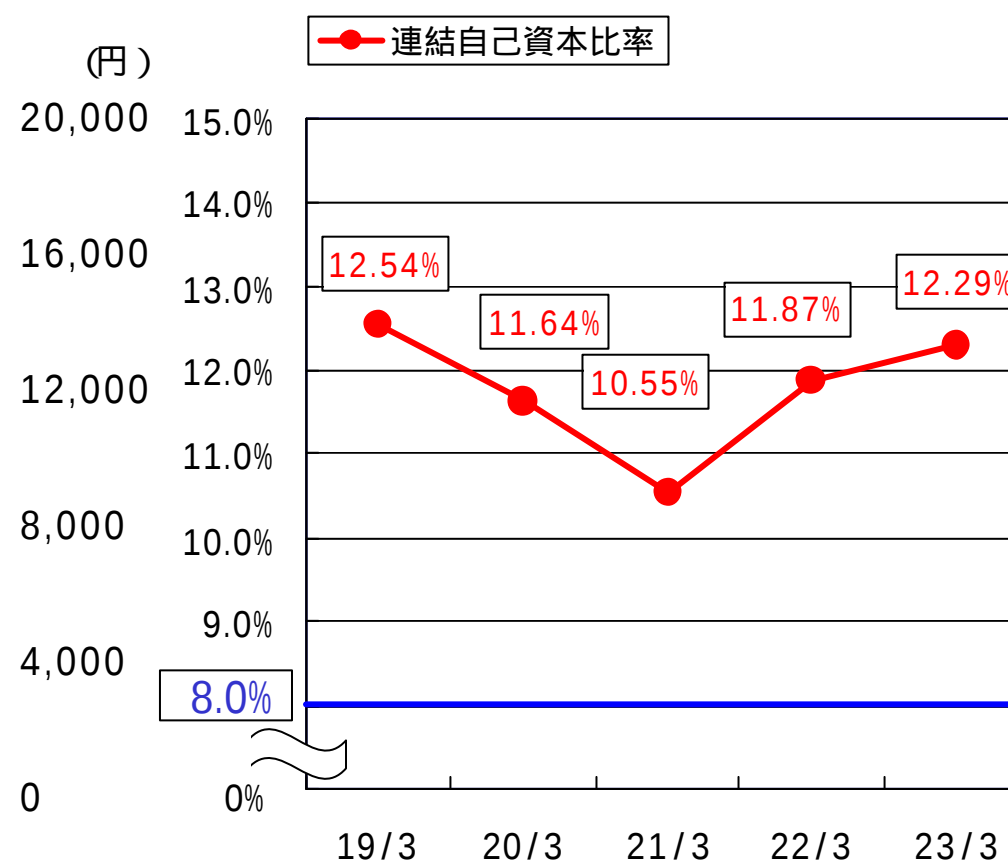
有価証券評価益 と 自己資本比率の状況

- 「有価証券評価益」は **817億円と地銀トップクラス** を維持しております。
- 「連結自己資本比率」も **12.29%と高水準** で、健全性は十分です。

< 有価証券評価損益 (単体) の推移 >



< 連結自己資本比率の推移 >



財務面の特徴（22年度）

- **健全性・成長性・収益性ともに、十分な水準を維持しております。**
- **今後も、各経営指標の向上を目指してまいります。**

健全性

有価証券含み益（連結）

当行実績： 847億円
地銀平均： 208億円

不良債権比率
（金融再生法）

当行実績： 2.39%
地銀平均： 3.16%

自己資本比率（連結）

当行実績： 12.29%
地銀平均： 12.03%

収益性

預金等平残増加率（過去3年）

当行実績： 11.53%
地銀平均： 7.70%

成長性

貸出金平残増加率（過去3年）

当行実績： 9.60%
地銀平均： 5.76%

コア業務粗利益増加率（過去3年）

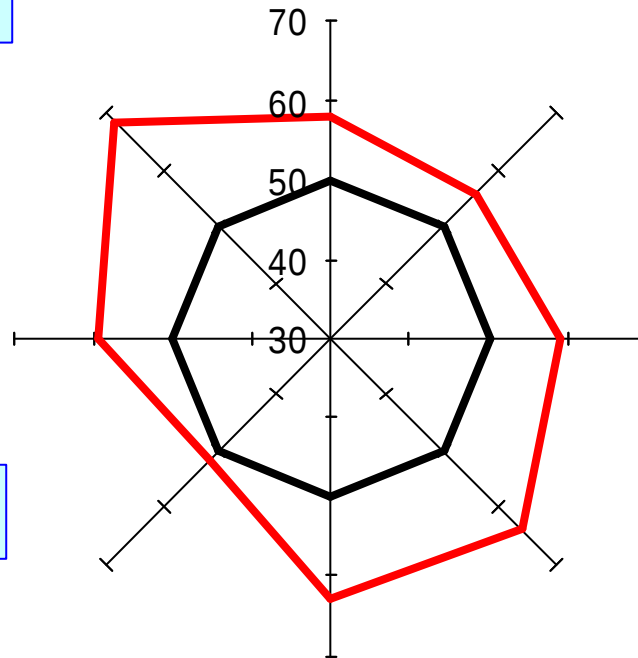
当行実績： 0.08%
地銀平均： ▲5.42%

OHR
（経費 / コア業務粗利益）

当行実績： 57.13%
地銀平均： 69.82%

ROA
（コア業務純益 / 総資産）

当行実績： 0.67%
地銀平均： 0.47%



< 地銀平均に対する偏差値 >

— 地銀平均 = 50
— 当行

2 3 年度の利益予想

- 23年度の「コア業務純益」は 375億円 (前年度比 + 18億円)、
「当期純利益」は 170億円 (前年度比 + 23億円)と、いずれも増益を見込んでおります。

(億円)

	21年度 実績	22年度		23年度	
		実績	前年度比	予想	前年度比
コア業務粗利益	806	833	+ 27	850	+ 17
うち資金利益	747	773	+ 26	788	+ 15
うち役務取引等利益	47	45	2	51	+ 6
経費 ()	476	476	+ 0	475	1
うち人件費	259	262	+ 3	266	+ 4
うち物件費	193	193	+ 0	189	4
コア業務純益	330	357	+ 27	375	+ 18
信用コスト ()	137	97	40	95	2
与信費用比率	0.40%	0.28%	▲ 0.12p	0.27%	▲ 0.01p
経常利益	188	242	+ 54	265	+ 23
当期純利益	130	147	+ 17	170	+ 23

- 中期経営計画で掲げております **3つの基本方針** を徹底し、
親切で頼りがいあるベストパートナーバンク をさらに追求してまいります。

企業理念

- 存在意義 潤いと活力ある地域の明日を創る
- 経営姿勢 最適のサービスで信頼に応える
- 行動規範 感謝の心でベストをつくる

目指す銀行像

親切で頼りがいあるベストパートナーバンク

基本方針

高付加価値を生み出す営業基盤の確立

基本方針

強靱で柔軟な経営管理態勢の構築

基本方針

地域社会の持続的発展に向けた
取組みの強化

店舗について

- 古川支店」、「久米支店」をリニューアルオープン
- 「ATM」県内最多「215か所」
- 他行ATMご利用手数料無料サービス」等

預金商品等について

- 「しあわせ賛歌1」
- 第3回「いよぎんえんぎよい」
- 「YOCA JCB EXSTAGE」

投資信託 保険等の金融商品について

- 「インターネット投資信託」
- 「いよぎん保険プラザ」
- 「金融商品仲介」取扱い店舗拡大

法人のお客さま向けローン商品について

- 「電子手形割引業務」
- 「いよぎん成長基盤強化支援資金」
- 「チャレンジ企業支援資金」

個人のお客さま向けローン商品について

- 「スピードフリーローン」
- 「新スピードカードローン」
- 信販会社との提携ローン
- 住宅ローン 段階金利型新商品

ビジネスマッチング業務について

- 「ひじき養殖事業化」
- 「愛媛甘とろ豚」販売開始イベント
- 「愛媛フェア」
- 国内外で数多くの商談会

CSR活動について

- 「地域文化助成制度」
- 「社会福祉基金」
- 「森のあるまちづくり」活動
- 金融経済教育活動

その他の活動について

- 「RCニューリーダーセミナー」
- 「株主優待制度」
- 「記念配当」
- 新ブランドスローガン「Challenge & Smile」

株主の皆さまへの利益還元について



伊予銀行

- 伊予銀行では、平成23年度より「**株主優待制度**」を導入いたしました。
- 23年度中間期には「**創立70周年 記念配当**」として**1円増配**を予定しております。

株主優待制度の導入

● 四国の地方銀行で初めての取組み

✓ 以下のいずれかから選択可能

	1千株以上5千株未満	5千株以上
株主優待 定期預金	スーパー定期1年物の店頭表示 利率 +年0.50% （1口100万円まで）	同左 （1口200万円まで）
愛媛県 特産品	愛媛県産品をカタログギフト 方式で進呈（ 5千円相当 ）	同左 （ 1万円相当 ）

創立70周年記念配当の実施

● 23年9月期に、**中間配当を1円増配**（4円 **5円**）

✓ 通期では8円 **9円**を予定

昭和16年9月1日に「一県一行主義」の国策のもと、東・中・南予でそれぞれ中心的役割にあった、今治商業銀行、松山五十二銀行、豫州銀行の3行が合併し、「伊豫合同銀行」が創立されました。当行はその後の行名変更によって、商号を現在の「伊予銀行」としております。

チャレンジします。みなさまの笑顔のために。

私たちは、地域とお客さまあつての銀行です。
みなさまへの「おかげさまで」という感謝の
気持ちをすべての行動の原点に、みなさまの
笑顔のためにチャレンジします。

頭取 森田 清治

負けて失敗したらその時に学ばばいい。学ぶ
チャンスができればいい。同じ失敗はしないと思う
だけでも成長なんです。次のステップに行き
たいから、勝っても負けても私にはエネルギー。

クルム 伊達 公子

感謝の心をこめて

Challenge
&
Smile



伊予銀行

本資料における、将来の業績につきましては、発表時において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としております。

将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。